

## 第2部会 司会 中島清治 記録係 根岸紘規

### □学校の授業への協力

- ・小学校 3、4 年生の環境学習（1 時限 45 分授業）

カヌーで河川のゴミ拾いを活動報告冊子、DVD にまとめて市内小中学校、高校、大学へ無償配布している。それを学校の授業で活用したという報告を受けている。

- ・中学校 2 年生の総合的な学習の時間に、カヌーで河川のゴミ拾い活動の DVD を見せながら環境学習の指導をした。
- ・学生(高校生)による小中学生に対して環境学習の授業をやってみたい。
- ・行政や環境問題に取り組む団体が、学校に対して積極的に「環境学習の大切さ」を知らせ、子供たちを育てたいという想いを持って出向いていく情熱がほしい。

### □子供と一緒に体験・学習

- ・カヌー体験会、川のゴミ拾いを地道に続けて行けば、少しずつ活動の輪が広がっていく。
- ・多くの子供もが、体験を通して環境や自然に対し興味を持てば、親や学校の先生方、大人たちに波及していくと思う。

### □まとめ

- ・川での体験を通して、河川や自然に興味・関心を持ち様々なことを知るだろう。
- ・川での活動を通して、クリーンリバーの精神を学んでいこう。
- ・いずれ子供たちが、自分の故郷を自慢したいと思えるように、まずは人を育てることが大切だ。そこで、学校の授業に協力するというのは非常に効果的である。
- ・市民・行政・学校で協力して未来に向けた人づくりが大切である。

## 第3部会 司会 角田道郎 記録係 田原篤三

### □学校の授業への協力

- ・河川美化活動を学校の環境学習に役立てたい。もっと回数を増やしたい。(おばさん参加)
- ・ゴミが年間を通して比較的集まりにくい。もっと集めてほしい。
- ・学校応援団(見守り隊、小鳥学習隊)の方々にも活躍してもらおう。
- ・綾瀬川の水質(BOD)全国ワーストワン、水質の改善、浄化槽定期点検、プラスチックごみの問題について、現状を子供たちに知ってもらおう。

### □子供と一緒に体験・学習

・日頃活動している環境団体から、学校の先生方へ体験することの大切さを積極的に働きかけていく。一緒に活動する機会をもっと設けていきたい。

### □まとめ

- ・河川の景観づくりも、今後は真剣に取り組んでいきたい。  
(例:排水溝に生コンを投棄する会社がある)
- ・環境団体の会員の高齢化については、長生き対策で勧誘。サークル団体へも勧誘する。
- ・若者や中間層の人々が入りやすい魅力的な団体を目指す。

#### 第4部会 司会 森中定治 記録係 東海林喜美子

##### □学校の授業への協力

・小学校 3、4年生の環境学習 1時限 45分で実施 現地説明

①川の水質問題について ②ゴミ問題について ③気候変動について ④生き物について

・鈴虫の鑑賞会、綾瀬川の土手の清掃活動等を通して、クリーンリバーの精神や命の大切さを子供たちに伝えている。

##### □子供と一緒に体験・学習

・綾瀬川を愛する会が、綾瀬川の美化活動、緑化活動に取り組んで25年になりました。「綾瀬の森」が、昆虫や植物が見える「川口綾瀬の森自然保護区」になった。

・土手のアスファルト化ではなく、「川口綾瀬の森自然保護区」へ入る道から草加市境まで810mを土の道で残すという選択を子供たちと一緒に取り組み、行政を動かした。

##### □まとめ

・子供たちと、緑の大切さ、自然や河川の水の働きについて、一緒に関わって活動してきたことを誇りに思う。

・「綾瀬の森」で体験し、育っていった子供たちが、世の中にはばたき、活躍してくれることを期待している。

・30代、40代、50代の人々が、自然環境の大切さ、素晴らしさを感じ、人間らしい生き方をしてもらえるといい。



第2分科会責任者幾島淑美氏あいさつの様子

# 第3分科会「川づくりはまちづくり」

参加人員 26名 (一般団体 18名 学生 7名 行政 1名)

13:30～

第3分科会の検討事項の説明

- ① 行政との協働推進体制づくり・イベント協賛など
- ② 自治会(町会)との協力体制推進
- ③ イベントをひろくPR・仲間を増やすために
- ④ 学校への環境教育を広げる活動について

地域(子供から高齢者まで)の環境意識の高揚とコミュニケーション交流の促進

13:40～

事例発表 (唐沢川を愛する会)

- ① 地域住民による河川浄化活動である(地域に根ざした活動団体)
- ② 深谷市は県北に位置し特産物等深谷市の特色を説明
- ③ 唐沢川に隣接する自治会(5自治会)福川に隣接する自治会(5自治会)
- ④ 「唐沢川を愛する会」のはじまり

生活排水や食肉処理物の垂れ流し等で「臭い・汚い川と言われていた。深谷市や埼玉県に浄化依頼したが「あそこは手を付けてもムダ」と無視された。地域の住民が行政の力を期待せず、自分たちの川は自分たちで守ろう！

- ⑤ 「唐沢川を愛する会」の活動について

今年で27年間活動を継続している。年会費一口200円で会員募集(約450口)1992年11月に発足、年6回の河川清掃、土手の美化活動を実施年1回のイベント(5町内一斉の河川清掃活動)行政も協力してきた特徴は、地域住民が中心となって自治会活動の一環として活動。最近では、地域コミュニティの場として運営している。

- ⑥ 点から線、線から面への活動展開

清掃活動地域は、唐沢川の下流地区で一雨降ればゴミが堆積するため上流地区の自治会に何度も何度も協力願いに足を運んだ。深谷の夏祭り、市民運動会等でも近隣町内を訪問して協力要請をした。深谷市、県土整備事務所等へも活動報告、活動計画を説明報告に通った。大変な月日をかけましたが、近隣町内も腰をあげてくれました。唐沢川の上流から下流まで近隣5町内で一斉清掃も実現しました。最近では、お祭り時各町内のお囃子をやる若人が積極的に川に入り清掃活動を行ってます。また女性も4～5人混じって清掃を行ってます。

これからもこのような地域に根ざした活動を積極的に展開し、未来につながる深谷市のモデル河川を目指し、息の長い活動を推進していく。

深谷市で、川の国応援団に登録している団体が16団体あり、今後交流を深めていきたい。また、県北地区の団体交流を計り活動を広めていきたい。

14:00～

グループを4チームに分け討議

自己紹介と現状の問題点……問題点を共有する

討議テーマを設定する

討議の進め方は、①どのようにすれば実現可能か？方法、方策 ②対象範囲と具体的な方法？ ③実施にあたっての問題点 ④継続的に活動が可能か？ 等々を討議する。

15:30に討議内容の発表を行います。

チームメンバー（検討会 参加メンバー）

Aチーム	草加パドラーズ	木村高明	獨協大学	竹花将明
	草加パドラーズ	石田雅弥	東京大学	小島理緒
Bチーム	浜川戸環境美化クラブ	中田卯敦	久喜市観光ボランティア	篠原吉則
	浜川戸環境美化クラブ	寺田 徹	久喜市観光ボランティア	黒須敏夫
	元荒川の自然を守る会	佐藤 修	栄東中学・高等学校	小松純大
			比企の川づくり協議会	山本正史
Cチーム	福川を愛する会	栗原征雄	三郷の川をきれいにする会	高橋秀明
	福川を愛する会	田中 明	草加パドラーズ	木村高明
	上尾ストップ温暖化	野家紀男	北部環境管理事務所	鶴田 学
Dチーム	学芸大学	梁取優太	わくわく新河岸川緑の会	山本長志郎
	城西大学	真野 博	草加パドラーズ	間宮理加
	川越環境ネット	菅野仲夫		

15:30～

検討内容の発表

Aチーム 河川の活動は、川幅により活動が変わってくる…川幅はちょうどいいのが大切。トップ(市長や町長等)が活動に力を入れているかいないかで、違ってくる。

① 自治会(町会)との協力

人々の視線が向けられているかが大切

⇒人々の視線が多ければ、行政も気にしてくる。

⇒抑止効果が働く

行政関係先には、市民と議員などと一緒に行って要請等をする。

② 学校への環境教育

とりあえず小学生全員をカヌーに乗せてしまう。

⇒川に入るのが楽しい、面白いと感じる

③ PRとイベント

PRは、大学がするほうが良いのでは??

ネーミングが大事(アヤッシー活動)

次世代の若者は何を好むか?

・ 川の楽しさを見つける

・ うまく行く秘訣はおもしろさ

Bチーム イベントをひろくPR、仲間を増やすために

① 元荒川のゴミ拾い

月1回、年1回イベントでさんまの「つみれ汁」を振る舞う  
会報誌で仲間を集めている。

② 古隅田川的环境整備

1月草取りとゴミ拾い、花壇整備



イベントに結びつけたい！

③ 久喜の観光ガイドに川を活用したい！ 50人

④ 栄東高校の芝川のPR活動

小学校へのアピール

地域住民へのアピール

Cチーム 次世代へつなぐイベントづくり

現状のイベント

① 福川を愛する会…5つの自治会で運営する清掃活動

② 上尾ストップ温暖化連絡会…一般市民向けの環境啓発

③ 三郷の川をきれいにする会…月1回江戸川清掃活動、市と地域の飲食店と協力して江戸川防災船着き場で川カフェ

④ 草加パドラーズ…週3回のカヌーを用いた川の清掃活動

課題

① 若い人に興味を持ってもらえるイベントの考案

例えば利根大堰ではサケの遡上が観察できるのでイベントに組み込めるかもしれない

② 学校で環境教育をするために教育委員会の許可を取るのが難しい

Dチーム テーマは、「なぜゴミをすてるのか？」

①無意識に捨ててしまう人

原因 ・捨てやすい場所

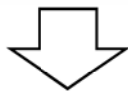
・うっぶんがたまっている人

・文化の違う外国人

} 住環境や社会環境によるもの

②意識的に捨てる

・コミュニティの崩壊につながる ⇒ どう再建していくか？(できるのか？)



環境教育が必要

教育する場所

子供 … 学校？ 家庭？

大人 … 自動車教習所など

大人も子供も楽しく参加できる場が必要であり体験させて判ってもらう

## 討議を終わってみて

今回はじめて町づくりをテーマアップしましたが、なかなか町づくりまで議論は進みませんでした。

討議時間が短かったのか各チームのまとめまではいかなかった。

しかし、現状の活動における問題点や要望点は、各チームで共有できたと思います。

活動する仲間は、それぞれもっと仲間を増やして活発な活動を進めたいと考えている人が多いと実感しましたが、他の人、行政、自治会等に賛同が得られない悩みをもっている。

まずは、賛同する仲間を増やし、また行政とも協働して進めることが町づくりに一歩前進することでしょう。

報告者 唐沢川を愛する会 栗田照正



# 第4分科会「川と防災」

スタッフ:座長(小林)、司会(町田) 受付(丸山)

参加者 16人

1. 開会のことば (町田) ~進め方の説明~
2. 座長のあいさつ (小林) ~分科会のねらいと方向性~
3. 各テーマに対する情報提供

① テーマ1:ハード面(行政側)の過去と現状について (小林)

大雨、洪水、高潮注意報・警報等、水位到達情報、ハザードマップの配布。不動産情報より災害情報優先に変わってきた。監視カメラ映像の公開で災害情報の共有。

② テーマ2:内水による被害に対しての自治会活動事例について (町田)

熊谷市妻沼町住宅自治会の災害体験と防災訓練。田んぼの真ん中の住宅地が、集中豪雨で内水氾濫により、避難を体験。眠っていた自主防災組織を動かし、消防署の協力で防災訓練を行った。県知事から表彰された。補助金でボートを買う計画。



③ テーマ3:市民団体が果たすべき役割分担について (小林)

地域コミュニティー崩壊と新たな災害文化、楽しい防災活動。

名古屋の天白川では、絵画展、リバーウォーキング、田んぼで楽しく防災を学ぶ。

川づくりの活動に防災活動を取り入れる。

住民対策をする市民活動。

～ 休憩 ～



写真6 天白川ふれあいウォーキング



写真8 2000年東海豪雨水害で水没した深さを知る。母丈よりも深かった！

写真5 市民団体が防災活動の中心となり、地域での活動が盛んに行われている。

③) 源流稲作体験

天白川源流域である日進市本野の



写真7 ふれあいウォーキング後のワークショップ。河川の自然環境や生活との繋がりがなど、見てわかったことを発表しよう。

## 4. 参加者間のディスカッション(意見交換)

- ・川には楽しさと危険もある。水害が少なくなり、防災意識が低くなった。
- ・昔は農家に舟があった。今は自治会でボートを購入し、水害の時の救助に使いたい。
- ・ボートを使いなれるよう、普段からイベントで活用しよう。
- ・上尾で川そうじをしている。鴨川に中州できた。川に土砂が堆積して、洪水に影響しないか心配。川にサクラを植えたが、防災規定で切られた。自然木は放置されている。土砂と自然木の管理で県と協議している。

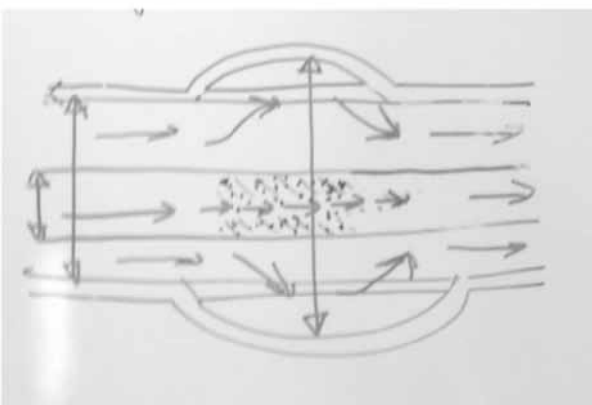




- 埼玉県はNPOと関係を作っている。岐阜県もそう。
- 行政は上から言われるとやる。国が言っていることは県も聞く。
- 石積み工事をしている。知事以下、川に熱心な埼玉県。従来型のコンクリート工事多い。工法を変えたい。地元の人と交流したい。
- 草加パドラーズ。綾瀬川で川ゴミ掃除をしている。有事には力になりたい。
- 鬼怒川の洪水を語りつぐ会。水の来た

カードを、各所に配っている。楽しい街歩き企画を、2月17日に水海道(常総市)で行う。内閣府に防災教育チャレンジプランがある。

- 綾瀬川で草刈り。岩槻、ハザードマップで水没区域。防災の9割は行政の役割。
- 自治会レベルで交流し、顔見知りになることが、災害の時に役立つ。
- 明治の時代に「改修に関する事項から修繕まで、すべて中央もしくは地方政府が施工すべきものであって、人民はただこれを傍観し、相省り見ざるを得ないとする考えは、治水の被害を大きくする」(デ・ケーレ)とあり、一人ひとりが防災を考えるべき。
- 諏訪湖で30年続く川そうじは、諏訪湖浄化役員を、自治会役員が担当する強みがあった。役員になった経験が、役員を下りても続く。
- 川をきれいにするテーマが多い中、治水を考えるテーマ。
- 川に興味を持ってもらうことが、防災につながる。
- 芝川、高校で活動、危険をどう知ってもらうか、怖い映像での「脅しの防災」では、忘れたくなる。地震、火山と共存するように、川と共存する。危険をどう伝えるか。
- 昔は災害が多かった。今は少なく、住民組織を考えたい。
- 地区防災計画づくりをしよう、自治会でやり切れない部分ある。NPOの協力が大切。
- 洪水は早く流すから、多自然川づくりで、ゆっくり流すに転換した。堤防では防ぎきれない洪水をと、美しい山河を守る基本指針ができた。



直線河川の堤防を部分的に広げると、洪水時に流速が落ちる。そのため、上流から流されてきた土砂が川底にたまる。

これにより①自然の堰ができ、早瀬が生まれる。早瀬の上流側には水がたまりトロ場となる。早瀬にはアユが集まり、釣り人も集まる。

②洪水時の流速を落とすので、洪水を下流にゆっくり流し、下流への洪水集中を抑える効果が生まれる。

- 直線を蛇行にする工事がされている。市民もそのことを知って、川と付き合いたい川にすることを提案する。
- 施設(ハード)で守ることで市民は安心してしまう。ソフトで防災をするとき。ソフト防災を市民が担える。

以上



## 第5分科会「生き物でにぎわう水辺」

テーマ

- ① 多様な生き物が行き交う水辺の環境
- ② 野鳥や魚・水辺の生き物の保全とまちづくり

参加者40名

スタッフ：藤井（座長）、江守、林、柳沢

第5分科会では、初めに話題提供としての事例発表の後、グループによるワークショップをするために、5グループに分けた席を設定しました。

### 事例1. ムサシトミヨを守る会（発表者：江守和枝さん）

ムサシトミヨは、かつては武蔵野のあちこちで見られた魚でしたが、現在では埼玉県熊谷市の元荒川だけに生息する、環境省と埼玉県によって絶滅危惧1A類に指定されたトゲウオ科の小さな魚です。

江守さんからは、ムサシトミヨの生態やその生息環境、昭和30年代の排水による水質の悪化と宅地化で水が少なくなるなどの状況を乗り越えて、熊谷で発見されてから保護に至るまでと、現在の会の活動などを話していただきました。

現在は、源流そばにある試験場からの地下水によってある程度の水量が確保されていますが、今なお家庭排水が流入し、漁協からの水の供給が終わるなどの課題もあります。

地元の小・中学校の子どもたちと協力しての保護・増殖の取り組みや、水環境の大切さなど、他の地域や生き物でも参考にできる内容でした。

### 事例2. 荒川夢クラブ・堅川をきれいにする会（発表者：林美恵子さん）

荒川夢クラブは、大滝村と川口市の子どもたちの荒川を通じた交流から生まれた会で、幼稚園児から高校生までの環境学習を支援する活動をしています。



堅川は、蕨市と川口市を流れて芝川に合流する、両岸を垂直の鋼矢板で囲まれた中で、多自然の川づくりがされている川です。

かつて農業用水だった堅川は、急激な都市化による水質の悪化がひどく、公民館の講座で集まった有志のクリーン活動が始まり、堅川をきれいにする会が発足しました。

荒川夢クラブとも協力しながら、行政と市民団体との協働による堅川の美化活動が活発に行われるようになりました。公民館では、市民団体の協力を受けながら子どもたちの川での環境学習・体験学習にも力を入れているとのこと。

## グループでのワークショップ

以上2つの事例では、希少な生き物を保全することの大変さ、汚いと思われていた川でもそこから子どもたちと川の生き物とのつながりを作ることができるということが、参加者に伝わったようです。その後、5つのグループに分かれて、それぞれの会の活動を紹介しながら、分科会のテーマである「多様な生き物が行き交う水辺環境を作るには」、「生き物の保全とまちづくり」について話し合い、最後にその結果を発表しあいました。

### 出てきた意見

- ◇水はきれいに見えるが処理水なので生物がいない。  
用水路をいじってはいけないと市から言われる。
  - ◇ウマノスズクサがあり、年中草刈りをしている。
  - ◇小学生にジャコウアゲハの標本づくりを教えている。
  - ◇文教大付近にもウマノスズクサがあるのがわかった。
  - ◇地下の生き物を育てれば、いろんな生き物が増えてくる。生物多様性につながる。
  - ◇生態系をトータルで考え活動すること。シンボル生物を設定すると活動の目玉となる。
  - ◇美化活動だけだと人が集まらないので、見学会や散策などもしている。
  - ◇ごみは作っている企業、売っている企業の責任が日本では問われないのが問題。
  - ◇ごみ処理を行政に要望してもやってもらえない。行政を巻き込んで話をしなければうまくいかない。
  - ◇中学生：ごみ拾いだけでなく、小さい子も親しめる水辺にしてほしい。
  - ◇高校生：人手が足りないと聞くので、できることを手伝いたい。
  - ◇大学生：川でのイベントをしている人が多いが、イベントを続ける中で参加者が減っていく。ごみを拾うだけだと続かない。生き物がキーワードになるのではないか。
    - ・伝右川は、上からかごを下げてしばらく置いておくと、テナガエビやザリガニがとれる。川が深くて入れないので、ほかの生き物がいるかどうかわからない。
    - ・川が汚いので近づきにくい。再生していかなければと思う。
- など、様々な意見が出てきました。

活動では、清掃活動をしている団体が多く、他に水質調査、生き物（動植物）の調査と保全活動が多いようです。

課題としては、メンバーの固定化、高齢化と後継者不足などがあげられました。

中・高校生、大学生も多く参加してくれたこれらの意見をこれからどう生かしていくのか、若い人たちが活動にどう参加してくれるのか、楽しみな分科会になりました。





## 第6分科会「川×学生」

全体のテーマ：川の変遷～昔・今・これから

- 6-1 水辺の生き物とのふれあいをどうしたら増やせるか
- 6-2 水害と上手く向き合うためにこれからできることを考えよう
- 6-3 食文化から川の魚を考える
- 6-4 川の水質改善に向け一歩踏み出すためのきっかけをどうつくるか
- 6-5 「川離れ」解決のための水質改善-川の魅力を取り戻すために

スタッフ：長谷川（座長）、山本

参加者：85名

NPO法人あらかわ学会、綾瀬川を愛する会、浦和麗明高等学校理数研究会、鴨川水辺のサポートの会、川口市上戸塚町会、川爺、越谷環境管理事務所、越谷北高校生物部、越谷ふるさとプロジェクト、埼玉県生態系保護協会春日部支部、さいたま農林振興センター、城西大学、西部環境管理事務所、草加市カヌー協会 少年部、草加パドラーズ、千葉工業大学 生物圏環境研究室、中央環境管理事務所、中央大学山田研究室、東京大学、東京学芸大学、東部環境管理事務所、獨協埼玉中学高等学校、獨協大学 大竹ゼミ、獨協大学米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」、新方川をきれいにする会、東松山環境管理事務所、東松山農林振興センター、比企の川づくり協議会、見てみようよ！常総市の会、立正大学地理学科原美登里研究室、その他個人参加

参加者全員に向けて、川×学生分科会が始まったきっかけ等の説明や、シニアからの情報提供を行った後、5つのテーマに分かれて議論を行った。

### 1. シニアからの情報提供（各5分）

- ① 「川の汚れと水質指標」戸田の川を考える会 長谷川 孝雄
- ② 「川の生き物」埼玉県立川の博物館学芸員 藤田 宏之
- ③ 「川と食文化」比企の川づくり協議会 山本 正史
- ④ 「川の災害」新方川をきれいにする会 門田 照男

### 2. テーマごとの議論

#### ■6-1 水辺の生き物とのふれあいをどうしたら増やせるか

座長：埼玉県立越谷北高等学校生物部

<話し合いたいこと>

- 1. 小さい頃など川や水辺で遊ぶとき、どんな生き物をつかまえたか、みつけたか。
- 2. 川や水辺をどう思っているか。どう関わってきたか。
- 3. 子供が川で遊ばないと言われるが、どう感じるか。



どうしたら遊ぶか。

4. どんな生態系を理想とするか。

<まとめ>

- ・最近の子どもが川で遊ぶことが少ない状況にあるのを、川で遊ばせたい、特に生き物を通して川で遊ばせたいと考え、議論した。
- ・結論としては、子供はもともと生き物好きである。子どもに関わる学校や親を説得する必要がある。説得は私たちのような人が担う。
- ・アクティブ、ポジティブに取り組みたい。そのために「接点」という言葉を大切にしたい。

#### ■6-2 水害と上手く向き合うためにこれからできることを考えよう

座長：東京学芸大学吉富友恭研究室 大木航央

<話し合いたいこと>

1. 一人一人が感じる「災害」「水害」のイメージの共有（例. 印象、規模、頻度等）
2. 記憶に残っている「災害」「水害」の見聞や体験について（学校の授業での見聞や体験含め）
3. 既に行われている埼玉県の水害対策を捉え直す
4. 私たちから発信できる水害対策（学区域や市町村、埼玉県全体として）



<まとめ>

- ・水害を取り上げたが、経験している人が若干名いた。大多数が経験していないのでイメージするのが難しいという話になった。
  - ・今まで防災教育を受けていないという人がほとんどで、学校現場等であまり普及していないのが現実である。
  - ・県の地形で水害への備えとしてやっていけることとして何があるかを検討した。
- ① ポケモン GO のようなスマートフォン対応アプリを開発・活用する。実際に自分がいる場所をアプリで見ると水害時に予測される水位と自分がどうなってしまうかがイメージできるとよい。
  - ② 地域の人と連携を強める。鬼怒川の氾濫で被害のあった常総市の事例を情報提供いただいたが、ショートメールサービスで各世帯に危険性を伝える取組がされている。
  - ③ 地域性を踏まえ、水害が起きた時に命を救う方法を考えることが大切である。西部はダムが多い地域で日頃から放水量など関心がある一方、1軒1軒が離れているので水害時のつながりが難しい。逆にさいたま市などでは住宅が密集しているが人口の流入が激しく、人のつながりが希薄となりがちである。
  - ④ 高校生から、水害発生時に外国語を使う人に対する配慮がないと、初動が一步二歩遅れてしまうという意見があった。多言語での情報提供に加え、特定のサイレン音が鳴ったらとにかく高台に逃げるといった情報提供が有効ではないかという意見があった。
  - ⑤ 構造物などハードに関する提言は学生としては難しいが、情報提供や教育現場で

通学区域にあるマンホールや用水路を取り上げるなど関心、危機意識を高める方法がある。

- ⑥ 「昔の川の風景」写真が掲示され、水害の写真もあった。記憶をとどめ散逸しないよう、記録写真を一か所にまとめることは重要である。津市では水害があったところでフィールドワークや体験学習を行っている。

### ■6-3 食文化から川の魚を考える

座長：東京学芸大学吉富友恭研究室 小徳 真

<話し合いたいこと>

1. どんな川魚を食べたことがあるか？
2. どうして川魚を食べる・食べない？
3. 川魚を食べよう！
4. 川魚の食文化の今後は？



<まとめ>

- ・「どんな川魚を食べたことがあるか？」はウナギ、マス、サケがあがった。
- ・県内では川魚の漁がかつてさかんで、今もホンモロコやナマズの養殖がおこなわれているようだ。しかしナマズを食べた経験があるのは参加者の半分だった。
- ・「2. どうして川魚を食べる・食べない？」では、食べる理由として昔から食べているから、健康食だからがあがった。食べない理由は小骨が多い、くさいがあがった。
- ・「3. 川魚を食べよう！」では、利根川の雑魚煮を試食した。砂糖と醤油で甘辛く煮られたもの。皆、美味しいとの感想だった。
- ・「4. 川魚の食文化の今後は？」では、積極的に食べてもらうにはどうしたらよいか話し合った。

- ① 給食メニューにする。
- ② 授業で養殖場を見る。川魚の調理体験をする。
- ③ コンビニおにぎりの具に川魚を入れる。
- ④ ドラマ、アニメといった大衆向けメディアで川魚を紹介する。
- ⑤ 手軽に買えるようにする。現状では養殖場や直売所でしか買えないものをスーパーにも並ぶようにする。
- ⑥ 川魚の安全性明記し、認証制度をつくる。
- ⑦ 川魚と海の魚のそれぞれの良さを比較して PR する。現状では、海の魚のほうが美味しい・安全・流通が多いイメージがある。

### ■6-4 川の水質改善に向け一歩踏み出すためのきっかけをどうつくるか

座長：獨協大学国際環境経済学科米山ゼミ 「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」

<話し合いたいこと>

1. 環境教育に参加したことはあるか。その情報をどうやって知ったのか。
2. きれいな川を保つ（水質保全）ために、川が汚



れないような使い方や取組をしているか。

3. 水質の悪い川の水質改善のため、一人ひとりどうしたらよいか。

<まとめ>

- ・「川で過ごしやすくなるよう、きれいにする」も大切だが、「川で子供が遊ぶことで、きれいになる」という側面もある。私たち学生も子供向けの水質調査・川遊び・カヌー等の体験を実施したが、体験するときれいにしたいという機運が生まれる。
- ・工場排水による川の汚れについては、市民や学生が工場に働きかけたい。
- ・川をよく知ることが、一人ひとりが例えば川の水はどこから流れてくるのか等を認識することにつながり、川に近づこうという意識づけになる。

#### ■6-5 「川離れ」解決のための水質改善-川の魅力を取り戻すために-

座長：獨協大学経済学部国際環境経済学科大竹伸郎ゼミ

<話し合いたいこと>

1. 昔（親の世代）、近くの川で遊べたか。今はその川に入れるか。
2. 昔のように川を身近なものに戻すために、どのような対策が考えられるか。



<まとめ>

- ・シニアや親の世代は「川は汚い」という認識が多い。経済成長に伴う有害物質の問題があり、工場排水、空堀りなどの問題があった。
  - ・そのため国や行政は川に近づかないようにする取組を進めた。その結果今の学生はあまり川に入らない。
  - ・川に近づけるためには、「川は汚い」という前提があるとうまくいかない。水質は改善し、今は全く入れないということはない。対策は以下のとおり。
- ① まず、子供が近づけるよう、川の入り口が分かりやすくするとよい。暖色のタイルをたくさん並べて近づきやすい雰囲気にしてはどうか。川に入る原体験がないので、本当に川に入ってよいか分からない。
  - ② また、イベントをたくさんやるとよい。ドイツでは河川を（水上バス？）で通勤するそうだ。トライアスロン、キャンプ、ボーイスカウトによる活動に加え、一般の人にも身近になるよう婚活をしてはどうか。
  - ③ 川に近づくようにするには、子供が近づくようにするのが一番良い。教育の中で川の重要性を学ぶ機会を設けるとよい。義務教育で教わったことがない。先生も川は汚いというイメージを持っているならば、変えていく必要がある。



# 川の再生交流会アンケート（結果）

## 第1部

回収 220人 / 400人 (回収率55%)

### <性別>

- ・男性 177件 (80%)
- ・女性 42件 (19%)

### <年代>

- ・20歳未満 21件 (10%)
- ・20～39歳 46件 (21%)
- ・40～59歳 41件 (19%)
- ・60～69歳 48件 (22%)
- ・70歳以上 63件 (29%)

### <所属>

- ・川の国広援団 81件 (37%)
- ・大学 45件 (20%)
- ・高校 19件 (9%)
- ・県 12件 (5%)
- ・市町村 17件 (8%)
- ・その他 19件 (9%)

### Q1. 来場のきっかけ

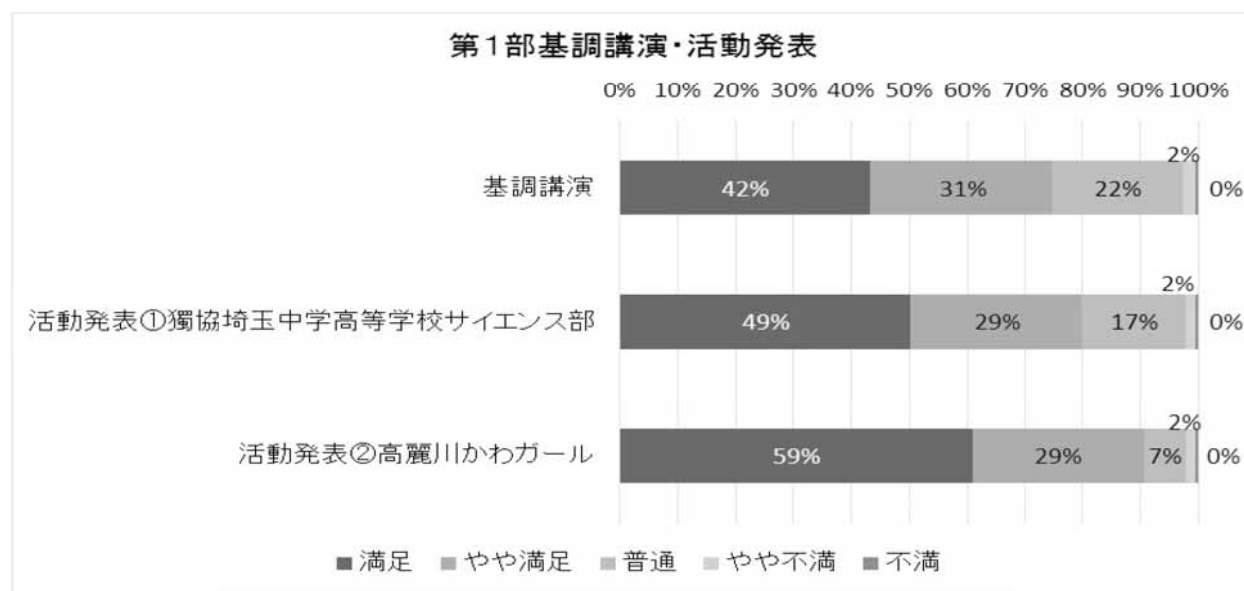
- ア：県からの通知 91件 (41%)
- イ：市町村からの通知 19件 (9%)
- ウ：ホームページ 19件 (9%)
- エ：学校の先生からの紹介 46件 (21%)
- オ：その他 15件 (7%)

### Q2. スタッフの対応

- ・大変良かった 108件 (49%)
- ・良かった 84件 (38%)
- ・普通 20件 (9%)
- ・悪かった 0件 (0%)
- ・大変悪かった 0件 (0%)

### Q3. 基調講演・活動発表の満足度

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
基調講演	42%	31%	22%	2%	0%
活動発表① 獨協埼玉中学高等学校サイエンス部	49%	29%	17%	2%	0%
活動発表②高麗川かわガール	59%	29%	7%	2%	0%



### Q4. 参加回数

- ・初めて 105件 (48%)
- ・2回目 22件 (10%)
- ・3回目 25件 (11%)
- ・それ以上 59件 (27%)

### Q5. その他、第1部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等

- ・ 色々な川への関わり方面面白いと思います。若い方のお話しはうれしいです。
- ・ 多い発表大変参考になりました。今後の自分たちの研究にいかしていきます。
- ・ 面白かった。
- ・ 会場一杯、熱気を感じる
- ・ 学校、学生の活動に偏った構成になっている。民間の企業でもよいので、下水道や浄化槽のメカニズムを分かり易く (10分くらい) 教えるものがあるのもいいのでは? 応援団の表彰がなくなった今、応援団の名称、活動場所の一覧の資料が欲しい。また、5分程度で司会から全体 (歴史やいくつかの活動例など) を紹介して欲しい。
- ・ 学生さんたちに特化した発表はまとまった形でよかった。次世代への引継ぎのヒントにもなりそうでした。
- ・ 学生達のすばらしい取組と発想に感銘を受けました。
- ・ 学生の参加ぜひ発表をお願いしたい。

- ・ 学生らの若い団体とともに、民間のおじいさんグループの輪が多いのに驚き。
- ・ 活動が継続出来る事が重要との吉富先生の話は、もつとも。私達も何か興味を取り入れてやって行きたい。
- ・ 画面が暗くて良く見えない
- ・ 川に行きたくなった。
- ・ 川に行きたくなりました。
- ・ 川に関して、専門的な言葉もあったが、逆にそれが川への関心を高めた。
- ・ 川への関心が増えました。もう少し水について考えてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・ 基調講演で、川について学ぶのに水族館を利用することもできるというのがおもしろかったです。
- ・ 基調講演での画面の字が小さくて見づらかった。(中層に座っていたので、後ろの人はもっと見にくかったのでは・・・)
- ・ 基調講演における”文字情報”がやや少な目だった。もう少し欲しかった！
- ・ 現在まで、この生物があったことを知らなかった。
- ・ 高校生、大学生これからも頑張ってください。
- ・ 今年の開催方法は、これまでの中で一番良かった。
- ・ このような会が、続いていくことを願っています。
- ・ これからも行政と協力してがんばりたい！
- ・ 今回の活動での内容を広くまとめられていて、展望に対して十二分に期待できる物であったと思い、プレゼンの方法も簡潔かつ丁寧で良かったです。
- ・ 今後も、仲間と参加したいと思います。
- ・ サイエンス部の水質調査の考察？がとても良かった。自分たちももっとがんばる。
- ・ 司会の女子高校生の司会はとても良かったです。”
- ・ 司会とても良かった。
- ・ 自分達の知らない川の環境に関する問題を教えて頂く機会になって良い日になりました。発表の機会を頂きありがとうございました。
- ・ 写真や図の多い発表で、とても分かりやすかったです。
- ・ 小、中、高、大学生が川に興味もつ事すばらしい。
- ・ 小中学生の活動も聞いてみたい。
- ・ 知らない活動が多数あり、おもしろかったです。
- ・ 資料も充実していました。発表内容もバラエティで良かったです。
- ・ 大変ためになった。
- ・ 地域の活動団体の発表の場を多く作ってほしい。
- ・ 独協埼玉中高サイエンス部発表は頑張っていることに拍手。しかし何故水質が季節変動するののかの原因として微生物の発生の変化によるものでは？との常識をくつがえすものではなかった。追及の迫りに乏しい。もっと指導者が関与すべき。高麗川かわガールの活動報告活動報告は手慣れたもので見やすかった。特に動画は素晴らしい。
- ・ 非常に良い、継続してほしい。
- ・ 若い方の活動発表は大変参考になりました。

- ・ 若い人達の活動報告があり、今後の河川活動の継続に関して希望が持てました。
- ・ 若者達が様々な形で楽しみながら活動していて、頼もしく感じました。
- ・ 若者の活動が知れて良かったです。
- ・ 内容の見直し必要ですね。形骸化しています。
- ・ 日本のコカ・コーラの財団どうしてないのか
- ・ 毎年、同じ内容ですね。工夫がない気がします。チラシがわかりにくいです。会場は重要な情報です、どこでやるのが、パッとわかりません。

## 第2部

回収 90人 / 400人 (回収率23%)

### <性別>

- ・ 男性 71件 (79%)
- ・ 女性 17件 (19%)

### <年代>

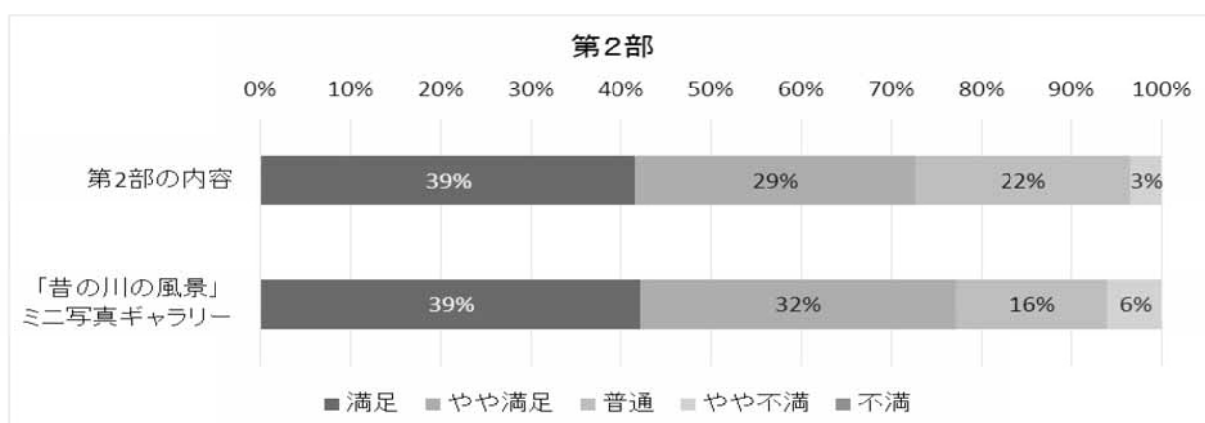
- ・ 20歳未満 9件 (10%)
- ・ 20～39歳 14件 (16%)
- ・ 40～59歳 17件 (19%)
- ・ 60～69歳 16件 (18%)
- ・ 70歳以上 32件 (36%)

### <所属>

- ・ 川の国応援団 38件 (42%)
- ・ 大学 15件 (17%)
- ・ 高校 10件 (11%)
- ・ 県 5件 (6%)
- ・ 市町村 10件 (11%)
- ・ その他 5件 (6%)

### Q1. 第2部の内容

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
第2部の内容	39%	29%	22%	3%	0%
「昔の川の風景」ミニ写真ギャラリー	39%	32%	16%	6%	0%



- ・ おもしろかったです。
- ・ 各団体の活動を見られたのが良かった。
- ・ とてもよかったです。
- ・ 昔の写真は貴重でした（昔を思い出して）
- ・ 市販のものかもしれませんが、ダンボールの展示枠というのは新鮮で面白かったです。
- ・ ミニギャラリーの展示場所が暗かった。
- ・ ①、②、⑦が興味深かった
- ・ ムサシトミヨの生態、もう少し聞きたかった
- ・ 説明が入れ替え制なのは良い。実際に担当された方が熱心に説明して頂き良かった。今後、SNSを通したつながりが続きやすいような工夫があると、もっと良い。
- ・ 充実した展示だった。もう少しゆとりあるスペースだったら良かったが、活気があり良かった。
- ・ 若い人のとりくみがわかりよかったです
- ・ 色々な資料をみていくなかで、分かり易いものが印象に残りやすかった。
- ・ 出会い最高
- ・ 学生など若い人達が多く参加しているのが素晴らしい、続けて下さい。
- ・ パネルがわかりやすかった。
- ・ 多数の団体が後継者問題ある。同感。
- ・ グループ①②の区別解らない。
- ・ ポスターの資料がない。写真にとるしかない。じっくり理解する時間がない。
- ・ もう少し持ち帰れる資料があるとうれしい
- ・ 展示スペースが狭く、ワンサカ。じっくり見られない。
- ・ 時間不足であまり見られなかった。
- ・ お陰様で無事ポスター発表することができました。
- ・ 展示にもうひと工夫必要であった（自分の団体についてです）

## 第3部

回収 120人／400人（回収率30%）

### <性別>

- ・ 男性 98件（82%）
- ・ 女性 21件（18%）

### <年代>

- ・ 20歳未満 21件（18%）
- ・ 20～39歳 29件（24%）
- ・ 40～59歳 12件（10%）
- ・ 60～69歳 21件（18%）
- ・ 70歳以上 35件（29%）

## <所属>

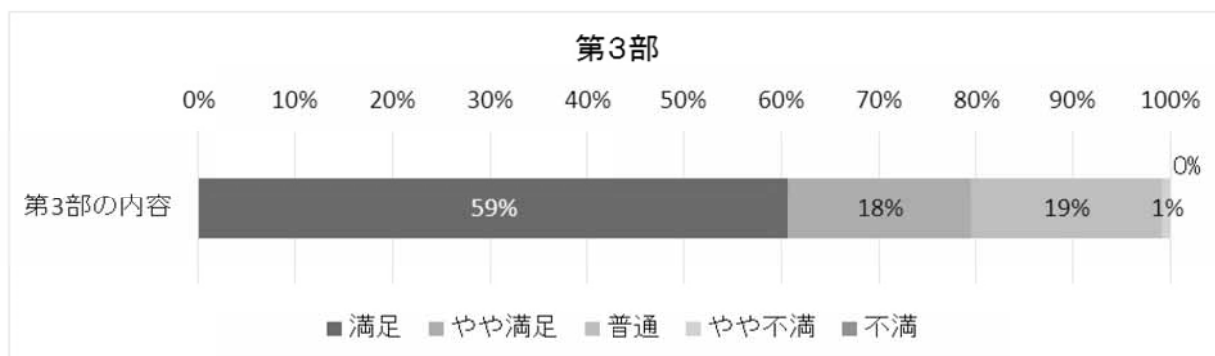
- ・ 川の国応援団 48件 (12%)
- ・ 大学 29件 (7%)
- ・ 高校 20件 (5%)
- ・ 県 2件 (0.5%)
- ・ 市町村 8件 (2%)
- ・ その他 2件 (0.5%)

## <参加した分科会>

- ・ 第1分科会 13件 (3%)
- ・ 第2分科会 17件 (4%)
- ・ 第3分科会 21件 (5%)
- ・ 第4分科会 9件 (2%)
- ・ 第5分科会 29件 (7%)
- ・ 第6分科会 40件 (10%)

## Q1. 第3部の内容

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
第3部の内容	59%	18%	19%	1%	0%



## Q2. 第3部全般についてご意見・ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

### [第1分科会]

- ・ 若い人や女性も少し来られていて良かった。なかなか水質ということを理解してもらうのは大変なようです。
- ・ 草加パドラーズのごみの問題。北海道での浄化槽の状況を聞かせて貰った。
- ・ 楽しかったです。
- ・ 高校生・大学生の新鮮な意見が聞くことが出来良かった。

### [第2分科会]

- ・ 水質浄化やゴミ処理のハナシ (ex. マイクロプラスチック) に限定されたような「環境学習」になってしまったが、行政が上・中・下流域で課題となるような内容を整理してから、市民への意見交換を提起すべきである。学校での協働に行う環境学習が、抜けてしまった会議であった。
- ・ 直面している課題のヒントになったので良かった

- ・ 小学生対象の環境学習とは別に成人、高齢の「生きがい大学」で、環境改善行動して加はる学習を入れるべきだ！！
- ・ 人数が少く話し合いが深まり、世代間の思いを伝え合って満足でした。がんばります
- ・ 各方面で活躍されている方々と情報交換できた。ありがとうございました。
- ・ 他の人と話し合う中で、今できること、すべきことについて新しく発見、学ぶことがたくさんあり勉強になった。大がかりでなくても、自分でできることはある、と分かった。今すぐにとはいかないけれど、川を守る、そのために川を知る、知ってもらう、というところから動いてみたいと思った。
- ・ 学校との交流の仕方といろいろノウ・ハウを教えてくださいました。
- ・ 充実した分科会と思いました。

### [第3分科会]

- ・ とても活発な意見交換ができて、楽しかったです
- ・ 参加者の交流広がった
- ・ グループ形式で、いろんな方と意見交換できたのは有意義だった。
- ・ 他のクラブ、団体等の意見を聞き、参考になりました。
- ・ カヌーに関しての話は良かった。
- ・ 様々な川の国応援団が行っているイベントの詳細が聞いて興味深かった。
- ・ 様々な立場の意見や経験を聞かせて頂きたいへん勉強になりました。学生同士の交流だけでは得られないものがたくさん得られたと思います。
- ・ 他の団体や個人の考えをきくことも色々参考になりました。

### [第4分科会]

- ・ 実際に様々な立場で現場に出ている方が多かったので、パネルディスカッション形式にしても良いのではと思いました。
- ・ 「川で開催する祭り等のイベント」を「防災（水難）訓練」の目的も秘めて実施することは有効であると感じました。
- ・ テーマ、内容とも今日的課題などで今後も掘り下げて継続して頂きたいテーマです。となりの分科会の声がつつぬけで非常に聞きとりにくい。
- ・ 様々な年代の意見を聞くことができて勉強になりました。

### [第5分科会]

- ・ 共通の話題もありつながりが出来ました。
- ・ ペットボトルなどのゴミの回収の費用はメーカーに持ってもらう。県はダム湖のゴミ回収をすみやかにすること（下久保ダム）
- ・ 話し合いの方向性の認識が弱く、話し合いが集中しにくい感有り
- ・ いろいろ地域の話聞いて知識が広がった。
- ・ いろいろな実践を聞くことができた。テーブル毎に運営について事前の準備が必要だったのではないかと感じた。ポストイット、模造紙、マーカーなども用意した方が良かったのではないかと感じた。



- ・ 本分野の講演会等（専門家の話）などが出来ればと思います。
- ・ 生き物などがいきつづけられるように水辺が改善
- ・ 自治体や企業から川の環境美化に関して助成金を受けると取り組みやすい。川の清掃、ゴミ拾いをした時に出たゴミの処理が県土、市、ボランティア団体の三者協定に治っているので、日曜日は環境センター（ゴミ処理場）に搬入しにくい。→行政（県、市、団体）で協議会を構成し解決策を探るべき（→市民の協力も呼びかけるのだから・・・）多様な生物でにぎわう水辺から保全→水田や家庭からの汚水（単独浄化槽）→川に流入しかも汚水の排水管の埋設が少ない。→川の汚染のもとである。荒川の水の導入が活用されている！
- ・ 発表のときのマイクやスクリーンの設備が良くない。ノートパソコンにスピーカーを付けること。
- ・ 様々な分野、年齢層の人達が集まっており有意義な意見交換ができました。
- ・ マイクなしで内容に集中出来なかった。残念（事例発表）。
- ・ 幅広い年代の方と「水辺の保全」について意見を共有できてとてもよい経験になりました。
- ・ 水辺の保全の大切さが良くわかりました。
- ・ 多くの川に対する活動をきけて参考になった。このような活動を我々が続けていくことができると接続可能な川の再生活動は、実現されていくのだと思う！！
- ・ 水質調査など詳しい意見を聞いた。

## [第6分科会]

- ・ あまり意見を發表しない人もいたが、改善できるように意見を聞きあえた。
- ・ （試食した川魚の雑魚煮が）おいしかった。
- ・ とてもためになりました。
- ・ いろいろな人の意見が聞けておもしろかった。今日議論したことを実際に行動できるように何かつなげられるものがあるとよいと思った。
- ・ 答えを出すことはむずかしいですが、いろんな世代の人で考える機会があったことはとても良かったと思いました。
- ・ 有意義な体験ができてよかった
- ・ 若い方は良くやっています。
- ・ ぜひとも学生をはげましつづけてほしい。
- ・ 様々な視点の河川に対する意見を聞くことができた。
- ・ 学生の意見も聞く事ができて良かったです。
- ・ 学生が発言できる様な運営が難しいという印象を受けました。
- ・ 昨年は別の分科会に参加し、司会者の一方的な発言が多く残念な思いをしたが、今年は高校生や大学生と活発な意見を交わすことができ、楽しい活動をすることができた。
- ・ 1つの班の人数が多いと思いました。
- ・ 人数をしばるべき。

## 環境学習アンケート調査

(調査主体：埼玉県河川環境団体連絡協議会、配布協力：埼玉県)

回収 27人/400人 (回収率7%)

### 《調査票より》抜粋

このアンケートは、埼玉県河川環境団体連絡協議会が埼玉県における環境学習のより活発化を目的に実施するものです。「川の交流会」参加者の多くの方が環境学習を実施していることを期待し行うものです。大変お手数ですが、ぜひご協力いただければと存じます。

あなたが参加する団体あるいはあなた個人は、

(イ) 近隣の学校を対象に環境学習を実施している。⇒問1をお答えください

(ロ) 学校の生徒のみを対象とした環境学習ではないが、広く一般市民向けに環境学習

(例：自然学習、川の探検隊)を実施している。⇒問2(裏面)をお答えください

(ハ) 上の2つのうちいずれでもない。⇒問3(裏面)をお答えください

### 問1 近隣の学校を対象に環境学習を実施している団体への質問

#### 1-1 学校での環境学習は次のいずれの時間に実施しているか

- ・総合学習 7件
- ・授業 1件
- ・その他 2件
  - ① ゼミ
  - ② 学校のバザーのイベントに併せて

#### 1-2 実施している学校名、学年、クラス数、具体的内容(植物学習、川の生き物調査など)

学校名	学年	クラス数	会場	環境学習内容	スタッフ数
戸田第二小	4	5	学校	川の水質調べ、川的环境	4
新倉小	5	3	小学校教室	川の話	3
滑川町立宮前小	5	全	校内	里山の学習(1時限、実地作業1時限+a)	2
足立第13中	2	3	体育館	水辺を活かしたまちづくり	
戸塚南小	4.5.6		川及び学校斜面林		
黒浜西小	4	3	元荒川	野草、樹木の説明	5
川越市の小学校	4	5	新河岸川	新河岸川・川たんけんて植物・生き物・環境について。	20
北川辺東小	5	1	オニバス自生地	生物観察	5
三郷市立吹上小	4~6		プール	Eボートの体験	
戸田第二小		1	学校	自由研究	12名1時間
新倉小	5	3	越戸川	魚とり(ジャブジャブ魚とり会)と	

学校名	学年	クラス数	会場	環境学習内容	スタッフ数
				絵画展	
滑川町立月の輪小	5	1	校内	ビオトープの学習支援(授業、時には現地)	1
戸塚北小	4	全	川及び学校		
川越市の小学校	4	4	小畔川	川の生き物	6
江川小	6	1	学校	川の歴史講義	1
北原小	5	3	越戸川	魚とり(ジャブジャブ魚とり会)と絵画展	

### 1-3 実施にあたっての謝礼の有無・金額

- ・有り 3件 (①10,000円、②4,900円(ないときもあります)、③3,000円)
- ・無し 7件

## 問2 広く一般市民向けに環境学習を実施している団体への質問

### 2-1 一般参加で実施しているイベント名、その内容

イベント名	会場	スタッフ数	参加者数	イベント内容
越戸川まつり	越戸川赤池親水公園	30	200~300	魚とり・ボート遊び・展示・食品販売・消防・地震体験車
川遊び	都幾川くらかけ清流の郷	5	10~20	
菜つみウォーク	元荒川川学	10~20	30	野菜を摘み近くの自治館で食する
小畔川自然探検隊	小畔川流域	20	35	川遊び・自然観察魚とりなど
ゴミひろい	見沼代用水路	5	20~30	
上尾消費展	コミセン	8		パネル展示
市民まつりでカヌー体験会				体験会
クリスマスEボート	東大島(スカイツリー往復)	3	15	Eボート
夏休みジャブジャブ魚とり大会	越戸川・赤地親水公園		200	子供の魚とり大会・ボート遊び
水辺ウォーク	元荒川閘戸	10~20	30	野鳥の観察や樹木散策終了後に全員で会食
川歩き	青毛堀川	2	10~20	さくら祭り
大会	文化センター	4	一般市民	
那珂川Eボート			10	

### 2-2 実施にあたっての参加費徴収の有無・金額

- ・有り 3件 (①1000円、②3,000~8,000円、③場合による)
- ・無し 5件

### 問3 学校対象の環境学習を実施していない理由

- |   |    |
|---|----|
| ・近隣に環境学習実施を希望する学校が無い。   | 0件 |
| ・かつては実施していたが、担当者、学校長の交代で実施しなくなった。   | 1件 |
| ・スタッフ不足で実施できない。   | 3件 |
| ・環境学習を実施する適当な会場が無い。   | 2件 |
| ・その他  | 3件 |
| ① 行政（市）が必要と感じていない   |    |
| ② 残念ながら芝川は汚水川で調査意欲がわからないのが本音、西堀の清流を流し込めば少しはきれいになり調査も可能になると考えます。団体の活動内容は多く、芝川清掃活動はそのひとつです。 |    |
| ③ 中高部活動で水質調査等を行っている為、他校を対象とした環境学習は予定していない。  |    |

### 問4 今後埼玉県における環境学習が活発化するには何が必要か

- ・ 学習の実施状況や成果を県のHP上で提供してもらおうと同時にやり方の指導を相談など対応していただきたい。環境学習には、専門性が問われると思われるのでなかなか自前で実施できません。（専門性が必要）
- ・ 教育委員会の巻き込み
- ・ 広報、啓発と予算措置があれば川に限らず環境学習は措置可能と考えます。
- ・ "ボランティアの募集、若者の参加、城西大学、独協中小高の様に他の川に近い学校、大学の参加はとても良いので、県からもアプローチ願いたい。
- ・ 関係者が本気になっての“ヤルキ”
- ・ 地域と学校をつなぐネットワーク
- ・ 専門知識（野草、野鳥、水生生物）を学ぶ機会があるとイベントを企画するのに自信がもてる
- ・ 観察水槽等の用具貸出し。
- ・ 外に出て、自然とふれあうことが大事。いろんな体験活動が必要。
- ・ とりあえず小中学生のうちに全員カヌーに乗せてしまう。（小中学生は体重が軽いのでおそらく全員がカヌーに乗れてしまう。自転車の乗り方をおぼえるのと同じで若いうちにカヌーの乗り方を覚えると一生忘れない）自動的に環境や川について関心をもつようになる。
- ・ 学校との連携

## 川の再生を支援する事業の御紹介（水環境課）

皆さんの川での活動に役立つよう、水環境課が実施している支援事業です。

※詳細はホームページでご確認ください！

<https://www.pref.saitama.lg.jp/kurashi/kankyo/mizukankyo/kawanokuni/index.html>



### 川の国応援団

登録無料。

カヤック、ライフジャケットなどの資材貸出、  
パケット（COD）などの資材提供などで支援します。



### 川ガキ体験イベント

例年7月から9月の時期に県内各地で  
実施される川のイベントを県がバックアップ！

※資材貸出・提供、保険加入、広報のお手伝い



### ボランティア体験講座

川での活動への入り口として。

気軽に参加いただける体験講座を、  
川の国応援団の皆さんと協働で企画します。  
年に数回実施。

# 受 検 者 募 集

平成30年度  
**川の国埼玉検定**  
中・上級編

- 日時：11月17日（土）9：30～
- 会場：あけぼのビル501会議室（浦和駅西口より徒歩9分）
- 受験資格：川でのごみ拾いや環境観察等の経験5年以上の方



求む！川の  
スペシャリスト

- 目標：川をテーマにした環境学習の推進。
- 主な活動：観察と体験を通して子どもたちに伝えていきます。
- 派遣先：埼玉県環境科学国際センターが主催による研修会を開催しています。また、川をテーマにしたイベントの開催も、上級合格者は川の国アドバイザーへ登録可能。
- 詳細は募集要項。

## 川の国埼玉検定

イベントに合わせて実施する入門編、  
年に一度実施する中・上級編の2種類が  
あります。過去問もHPで公開中。



## 川の国アドバイザー

川の国埼玉検定の上級合格者が登録でき、  
地域で行う環境学習の講師や生き物調査、  
水質調査の指導などでご活躍いただいま  
す。派遣無料（県が費用を負担します）。





